

奄美大島・喜界島農業の動き

■令和6年12月

1 青年農業者，課題解決に向けた取り組みを発表

11月26日，龍郷町りゅうがく館で大島地区農業青年クラブ連絡協議会主催の青年農業者会議が青年農業者，指導農業士，女性農業経営士，関係機関等約60名出席のもと開催されました。会議では2名の青年農業者が，①就農後3年間の経験に基づく意見発表，②農福連携への取組事例発表を行い，経営理念や特色，今後の展望等を語りました。地区指導農業士会会長の講評では，新たな取組への前向きな姿勢が高く評価されました。農政普及課では，引き続き課題解決に向けた支援を行っていきます。

2 多様な担い手を一堂に会し，セミナーを開催

11月26日，農政普及課は龍郷町りゅうがく館で奄美大島・喜界島の認定農業者等約100名を参集し「奄美農業担い手セミナー」を開催しました。セミナーでは，奄美アドバイザー（株）の町田克郎氏が「奄美大島・喜界島農業への期待」と題して講演し，両島で生産される農産物や加工品の紹介，地場産野菜やさとうきびとの複合経営など様々な提言がなされました。参加者からも地域農業の新たな発展を願う声が聞かれ，今後もこのようなセミナーを開催していきたいと考えます。



奄美農業担い手セミナー

3 令和7年度の瀬戸内パッションブランド産地協議会の活動開始

12月5日，せとうち物産館で会員や関係機関22名が参加し，瀬戸内パッションブランド産地協議会の総会が開催されました。今年度は気象の影響もあって，収穫量が減少したため，令和7年度は，単収や品質向上に重点を置いた活動を進めていくことに決まりました。加えて，6月に営農支援センターでの研修を終え，就農した4名に対して，協議会活動やかごしまブランドへの取組等について，役員が中心に紹介する計画です。農政普及課では，今後も引き続き協議会活動を支援していきます。



総会のように

4 製糖期を前に収穫作業従事者が農作業安全について学習

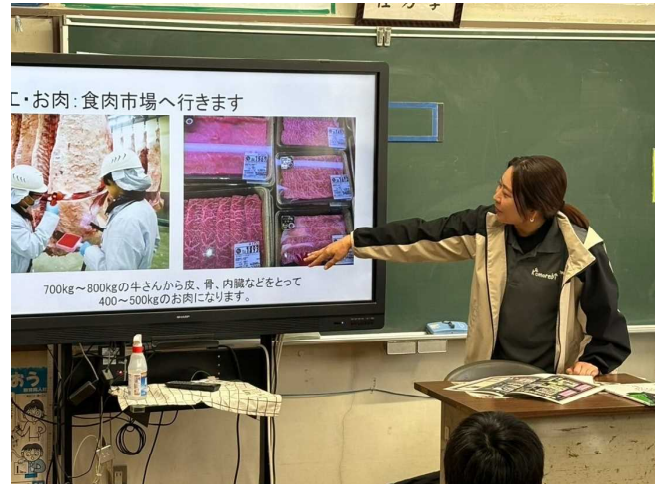
12月9日、さとうきびハーベスタオペレータ、補助員を対象とした安全研修会が笠利町農村改善センターで開催されました。講師には普及情報課の水流専指を迎え、事故例の動画を視聴し、事故が起きた理由について学習しました。参加者は、事故を起こさないようにするには「ここが危ないかもしれない」と想像力を働かせ、その対策を繰り返していくことが大事だという水流専指の言葉を胸に、製糖期中の事故防止に向けて気持ちを新たにしました。



ハーベスタオペレータ安全研修会

5 若手女性農業者組織komorebiが食育出前授業を開始！

12月10日、奄美大島と喜界島の若手農業者で組織するkomorebiが奄美市立大川小学校で、3～6年生を対象に肉用牛に関する食育出前授業を行いました。出前授業で使用したスライドやリーフレットは、会員自らがそれぞれの経営や視察研修で集めた情報から作成したオリジナルです。牛肉が食卓に上がるまでには多くの人に関わり、大切に育てられていることを子供達に伝えました。農政普及課では、女性農業者の新たな活動展開を引き続き支援し、女性農業者のリーダー育成に繋げていきます。



食育出前授業

6 瀬戸内町で熱帯果樹の講演会と園地見学会開催

12月18日、瀬戸内町きゅら島交流館で、日本熱帯果樹協会と瀬戸内町農業振興会果樹部会共催による、講演会が開催されました。瀬戸内町からアボカドや熱帯果樹栽培の現状、協会会員からアボカドについて、これまで理解していることについて報告されました。その後、2コースに分かれて園地見学会が行われ、1つは加計呂麻島のマンゴーやアボカド等の栽培、もう1つは本島側のアボカドやパッションフルーツ、ピタヤ等の栽培について見学し、それぞれ活発な意見交換がなされました。



講演会



見学会

7 奄美市たんかん塾、全3回の講座を終了！

12月19日、第3回目の奄美市たんかん塾が奄美市農業研究センター会議室で開催され、48名の塾生が受講しました。当該講座は果樹普及職員を講師に、奄美市のたんかん栽培初心者向けに開かれており、今回のテーマの「たんかんの整枝剪定と幼木育成管理」に関するスライドに加え、実際の枝を使った剪定の実演も交えて丁寧な解説しました。6月から開始された全3回の講座は今回で終了しますが、奄美大島産たんかんが質量ともに一層飛躍していくきっかけになることを期待したいです。



冒頭のあいさつ・紹介



講座のようす